

【発行元】

岐阜県福祉のまちづくり推進協議会  
〒501-3246  
関市緑ヶ丘2-5-78  
TEL：0120-337-301  
FAX：0575-24-5733

# 月刊 あったかいご通信

月刊「あったかいご通信」を発行する土地活用研究会は、地域密着の建設会社が福祉施設の開業をサポートする全国50社の国内最大級のネットワークです。毎月、業界の最新情報や成功事例をお届けします。業界全般の最新情報や経営のコツ、利用者募集や人材マネジメントなどリクエストも大歓迎です！

※記事引用・厚生労働省・国土交通省・㈱官公通信社・高齢者住宅新聞社・福祉新聞・日本経済新聞 他

## ピアスタッフが回復モデルに 依存症に専門チームで寄り添う 救護施設



※「福祉新聞」依存症の方を受け入れる救護施設

社会福祉法人大阪婦人ホーム（石田易司理事長）の女性専用救護施設「ホーリーホーム」（定員90人）。赤い羽根福祉基金の助成事業を活用して依存症患者・暴力被害者の受け入れ・支援・地域移行に力を入れている。

大阪市東南部の町工場が建ち並ぶ一角にあるホーリーホームは、1907年創設の最も古い女性専用救護施設。全国180カ所の救護施設のうち、同ホームを含めても全国に5カ所しか存在しない。

助成事業以前から、利用者に依存症患者や暴力被害に遭った人はいたが、その過酷な経験が入所後の「問題行動」に発展するケースもあり、その都度職員は対応に苦慮。適切な支援策を模索していた。

福越直子施設長は「女性依存症者には暴力などの被害体験者が多い。それまで他の利用者と同じ支援内容だったのを、チームで専門的に行うことにしました」と話す。

依存症利用者の「よりどころ」になればと同じ経験を持つ人を専任のピアスタッフとして雇用した。暴力被害経験のある利用者にも対応するためのカウンセラーも配置。一般職員も含めてチームを組み、支援プログラムを提供した。

その一つが、依存症ミーティングと暴力被害者ミーティングだ。依存症は多い時で約15人、暴力被害は3人ほどが参加。毎月2回ずつ開催し、ピアスタッフも参加して、自分の体験や気持ちを話すというもの。

以前までは、「飲酒したい気持ちすら職員になかなか打ち明けてもらえませんでした」（福越施設長）。ミーティングの実施やピアスタッフがホーム内にいることで、「心を開く利用者が増え、行動も落ち着きました。ピアスタッフの姿が身近な回復モデルとなっています」と話す。

障がい者施設や介護施設はただ決められたサービスを行うだけでなく、サービスの質の向上や多様化が進んでいる。新しい障がい者・介護施設モデルのご相談は弊社まで。